

研究主題

人口減少先進地域の課題解決を素材とした 主権者として必要な資質・能力を育む教育の実現方法

人口減少先進地域が直面する現実的課題の解決に向けた探究学習を構想するとともに、主権者として必要な資質・能力の育成を目指す学習を「入れ子構造」で設計した学習プログラムを開発する。

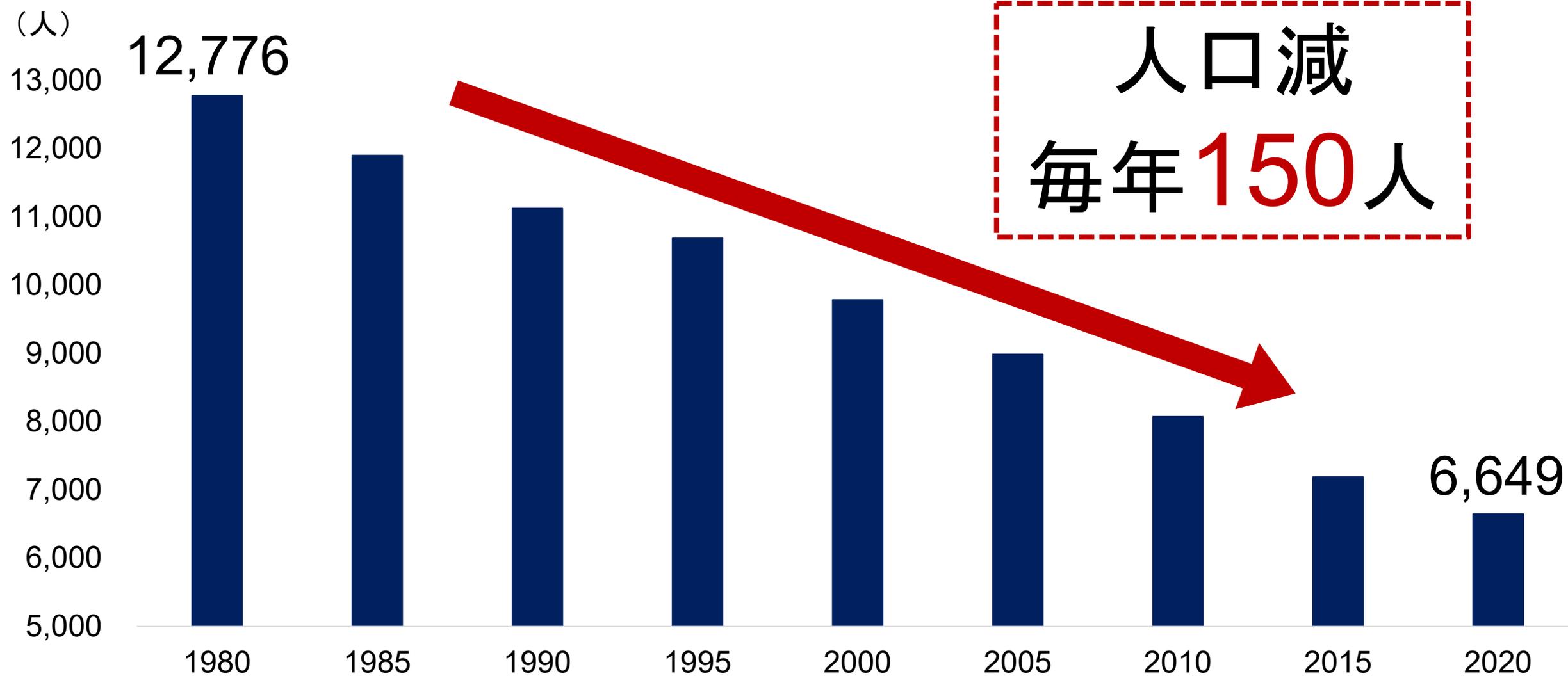
静岡県立川根高等学校

副校長 小原 勝則

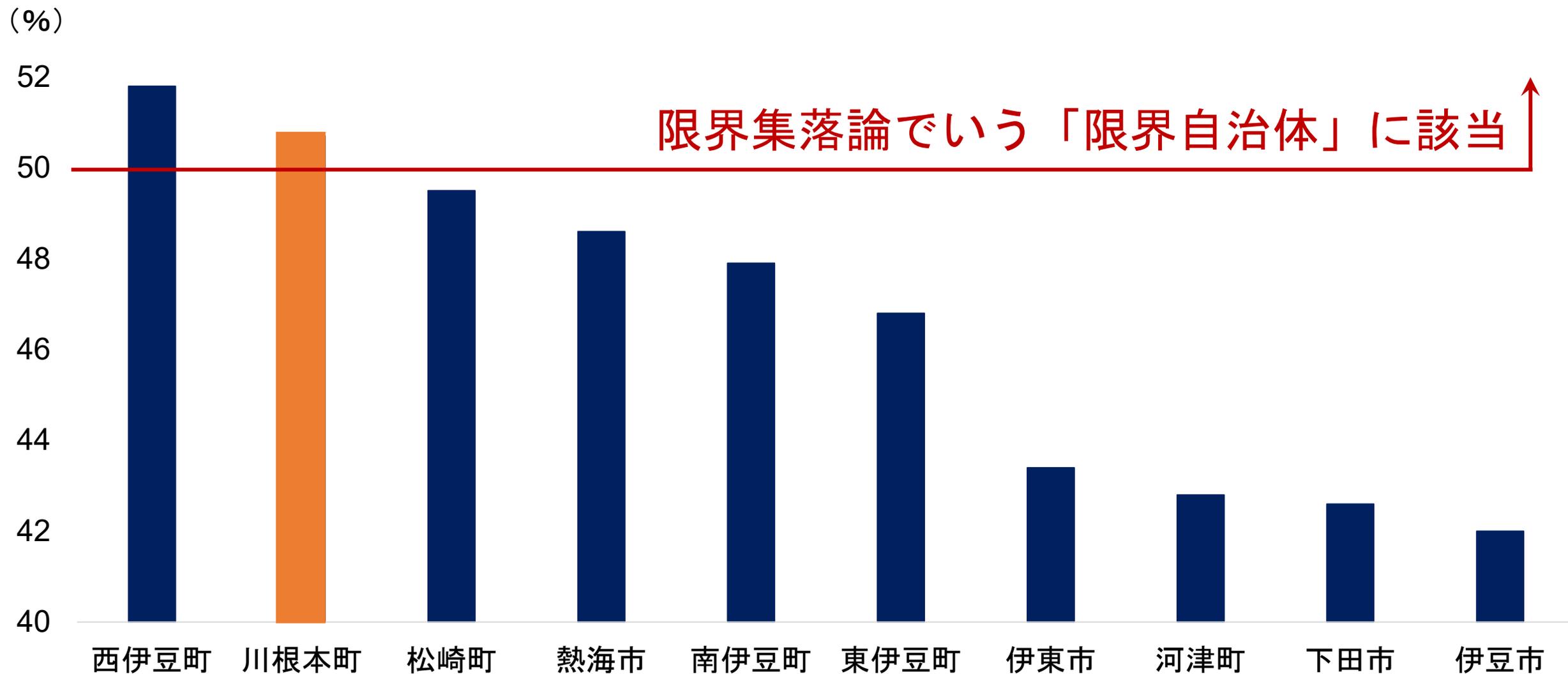
教諭 池田 哲朗

主題設定の理由 (副校長より)

川根本町の人口推移



静岡県内の高齢化率（高齢化率40%以上の自治体を抜粋）



「魅力化」をめぐる4つの潮流と本校の選択

学校のプラットフォーム化

チーム学校

高校

統廃合の回避

地域

消滅可能性都市

政府・文科省

地方創生
学習指導要領



高校
「魅力化」

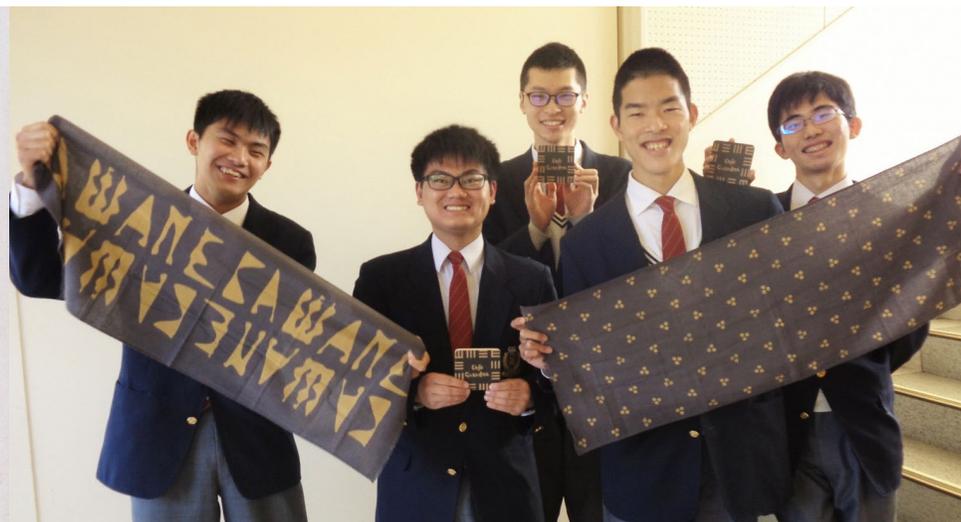
地域みらい留学

- 豊かな自然
- 様々な人との出会い
- 教室だけにとどまらない学び
- 少人数だから全員主役
- 寮生活で自律と自立

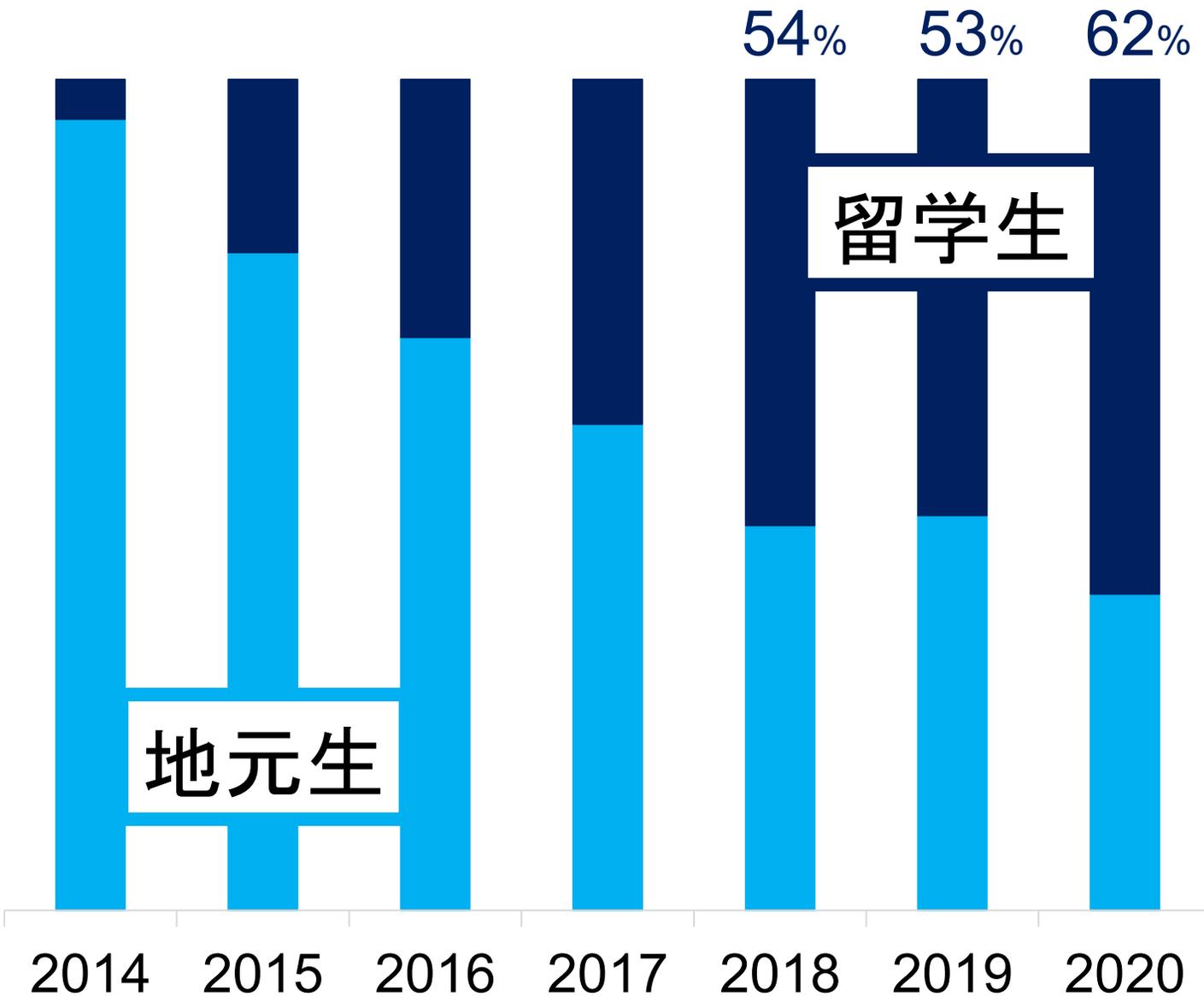
人口減少先進地域の課題解決に向けた探究学習（例）

探究学習のテーマ（例）

川根茶染めプロジェクト	なぜ戦争は起こってしまうのか
ヤングケアラーの社会的孤立を防ぎたい	地球以外の星に住む方法
持ち運び型個人シェルターの開発	英会話でカヤック体験プロジェクト
徳山地区の伝統や魅力を広める	夢の吊り橋ライトアップの提案
スポーツイベントの企画・運営と芝生管理	川根を「聖地」にするには
なぜ毎日トーマスは走らないのか	自分の変え方



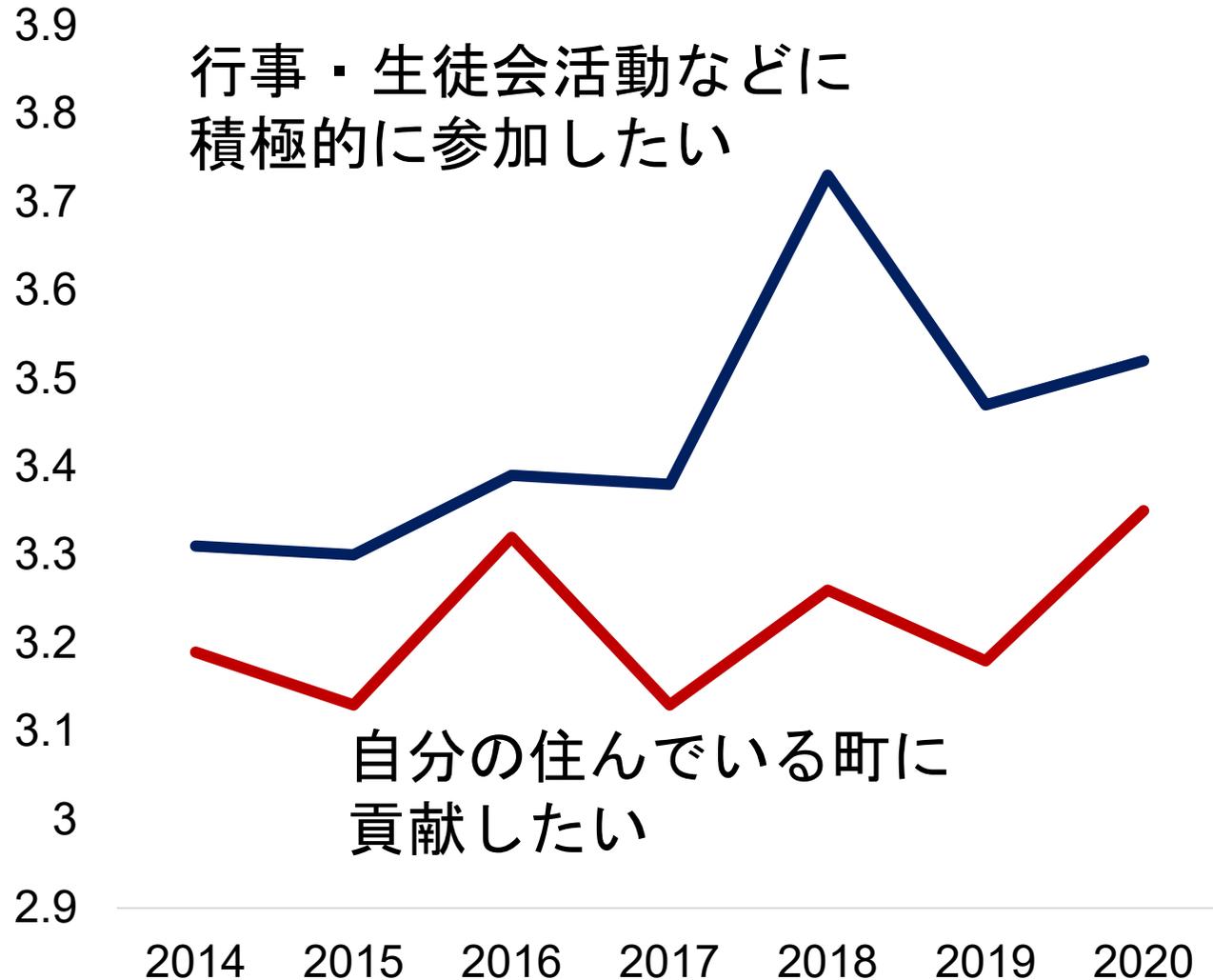
本校の課題① 留学生の増加に伴う地元意識の低下



生徒の半数以上は
「今ここ」が
地元ではない

地域課題を十分に
自分事化している
とはいえない

本校の課題② 生徒の社会参画意識のバラつき

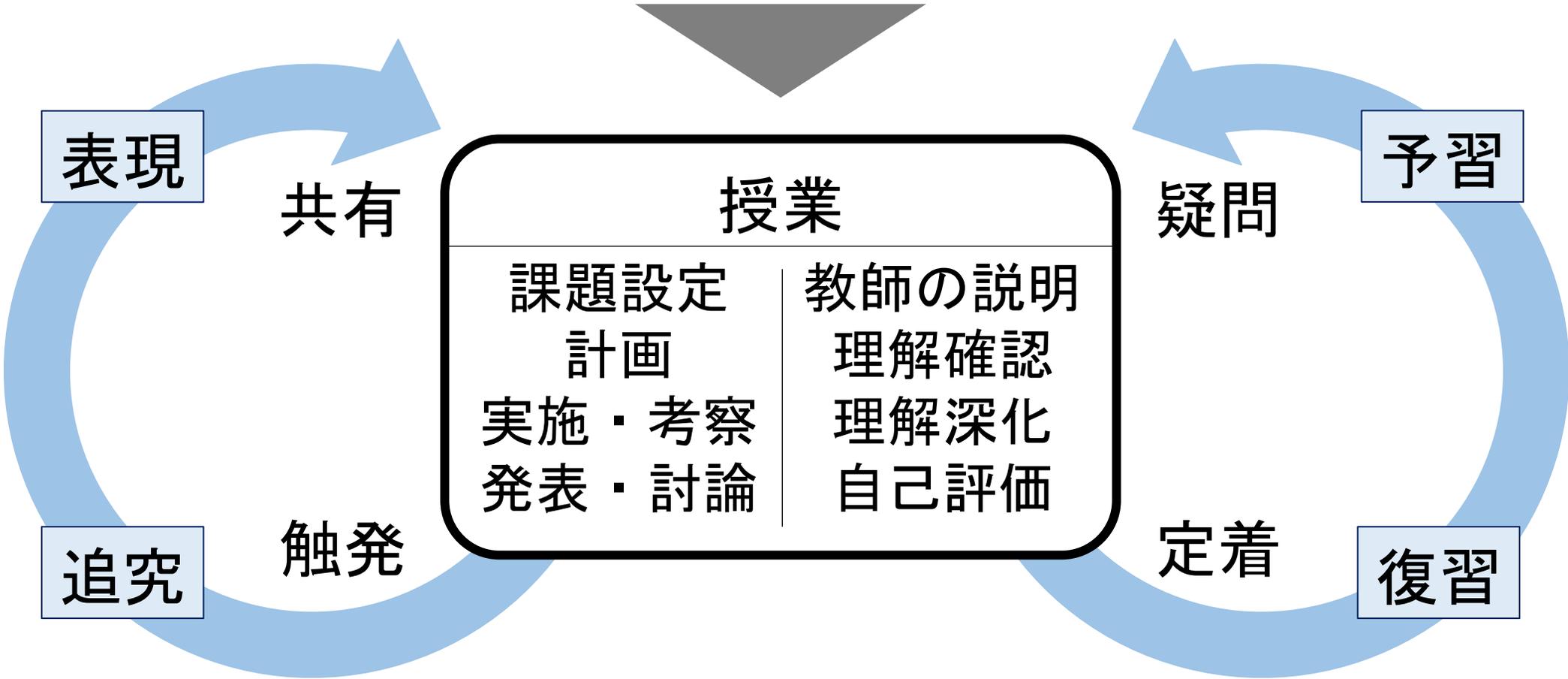


年度による変動幅が大きい



授業での学習成果を日常生活へ十分に転移できていない

人口減少先進地域である川根本町の現実的課題



探究サイクル ← **入れ子構造** → 習得サイクル

(時期を置いて連鎖する仕掛け)

実践事例と工夫点 (担当より)

研究の計画（どんな観点で指導するか）

本研究における「主権者として必要な資質・能力」

- ア 社会の基本原理についての理解や、政治・経済に関する知識
- イ 社会的事象や地域課題を自分事としてとらえようとする態度
- ウ 事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力
- エ 課題を発見しその解決に向けて協働的に追究し、納得解を見出そうとする力
- オ よりよい社会の実現を視野に、社会形成に参画しようとする力

学習活動

- ①社会の法的主体としての自覚
- ②社会の政治的主体としての自覚
- ③社会の経済的主体としての自覚
- ④地域の「ありたい未来」の形成者としての自覚

研究主題

人口減少先進地域の課題解決を素材とした
主権者として必要な資質・能力を育む教育の実現方法

探究サイクル ← **入れ子構造** → 習得サイクル

(時期を置いて連鎖する仕掛け)

研究の方法

カリキュラム・マネジメント

社会に開かれた教育課程

公民科

+

教科等の連携（家庭、情報、商業、特別活動、総合的な探究の時間）

+

専門家や関係諸機関との連携（町役場、青年会議所、地域団体等）



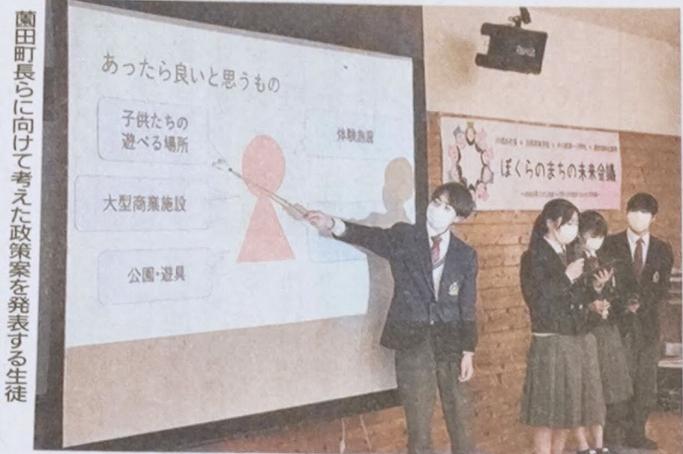
小高合同による町長への政策提言

(学習活動④ 地域の「ありたい未来」の形成者としての自覚)

HP刷新や子育て施設開設…

未来の町づくり 生徒、児童が提言

島田青年会議所が主催する「ぼくらのまちの未来会議」が8日、川根本町の川根高で開かれた。同校生徒と中川根第一小の児童が「未来のまちづくりに取り入れてほしい」と考えたアイデアや政策案を園田靖邦町長ら町幹部に発表し、意見を交わした。



園田町長らに向けて考えた政策案を発表する生徒
川根本町の川根高

町長ら幹部に政策案

川根高と中川根第一小

選挙権を持つ前から主権者意識を育もうと企画した。両校の児童・生徒は授業の一環で園田町長が就任した10月から準備してきた。デザイン刷新を提案し

川根高は一つの班が代表して発表した。町会ホームページのアクセス数の少なさに着目した班はホームページのデザイン刷新を提案し

総探で小高交流

社会科・公民科の授業で政策づくり (町の現実的課題にどう対処するか)

青年会議所を介して

合同で町長等へ政策提言

「入れ子構造」を実現する工夫



- ① 共通言語は「人口減少先進地域である川根本町の現実的課題」
～ 生活者としての満足度を高める ～
- ② ICTを駆使した継続的な関わり 増
～ 専門家や関係諸機関を教育活動の伴走者とする ～
- ③ オンラインでのやり取りには1人1画面
～ 遠慮や譲り合いを乗り越えろ ～

どう「入れ子」なのか（カリキュラム・マネジメント）

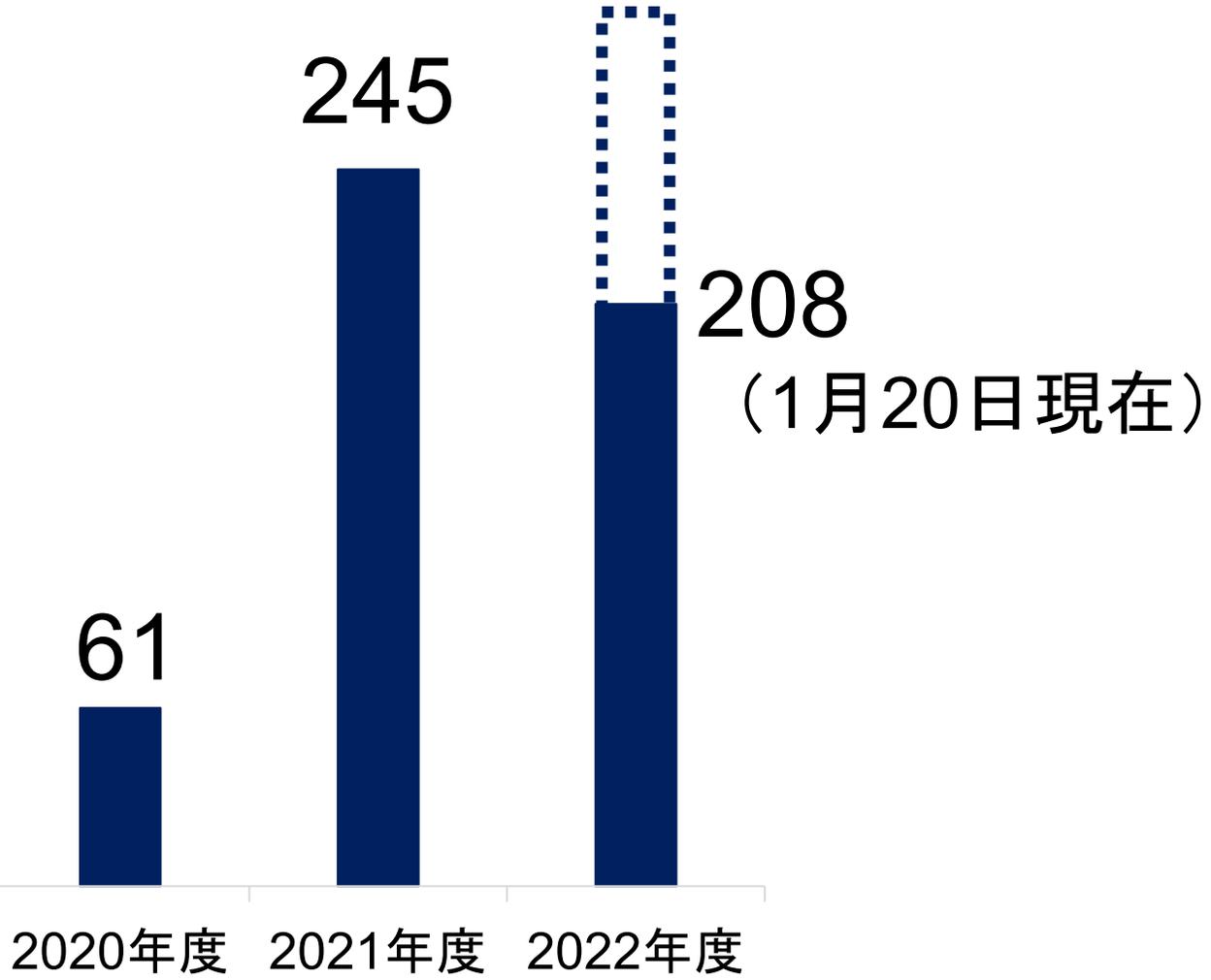
	公民科	関連する教科等 （「 」は単元又は講座名）	連携機関 （抜粋）
4月	学習プログラム① 社会の 法的 主体としての自覚	家庭 「 ともに生きる 」	小学校 弁護士
5月		特活 「 司法セミナー 」	
6月	学習プログラム② 社会の 政治的 主体としての自覚	情報 「 著作権、個人情報 」	中部県民生活C 地元企業20社
7月		総探 「 しごトーク 」	
9月	学習プログラム③ 社会の 経済的 主体としての自覚	家庭 「 消費者の権利と責任 」	Safety First静岡 町選挙管理委員会
10月		特活 「 薬学講座 」	
11月		商業 「 マーケティング 」	
12月	学習プログラム④ 地域の「 ありたい未来 」の 形成者としての自覚	情報 「 データ分析 」	静岡県立大学 静岡大学 町役場
1月		家庭 「 社会保障の考え方 」	
2月		総探 「 川根地域交流会 」	
		特活 「 生徒会長選挙 」	町選挙管理委員会



共通言語は「人口減少先進地域である川根本町の現実的課題」

どう「入れ子」なのか（社会に開かれた教育課程）

連携した外部人材（専門家や関係諸機関関係者）数の推移（延べ数）



単発の関わり 減
&
 ICTを駆使した
継続的な関わり 増

↓

教育活動の伴走者に



オンラインでのやり取りには1人1画面

成果と課題 (担当より)

成果1：町の現実的課題を扱うことによる生徒の変容

（「主権者として必要な資質・能力」イ）

「社会的事象や地域課題を自分事として捉えようとする態度」に対する自己評価

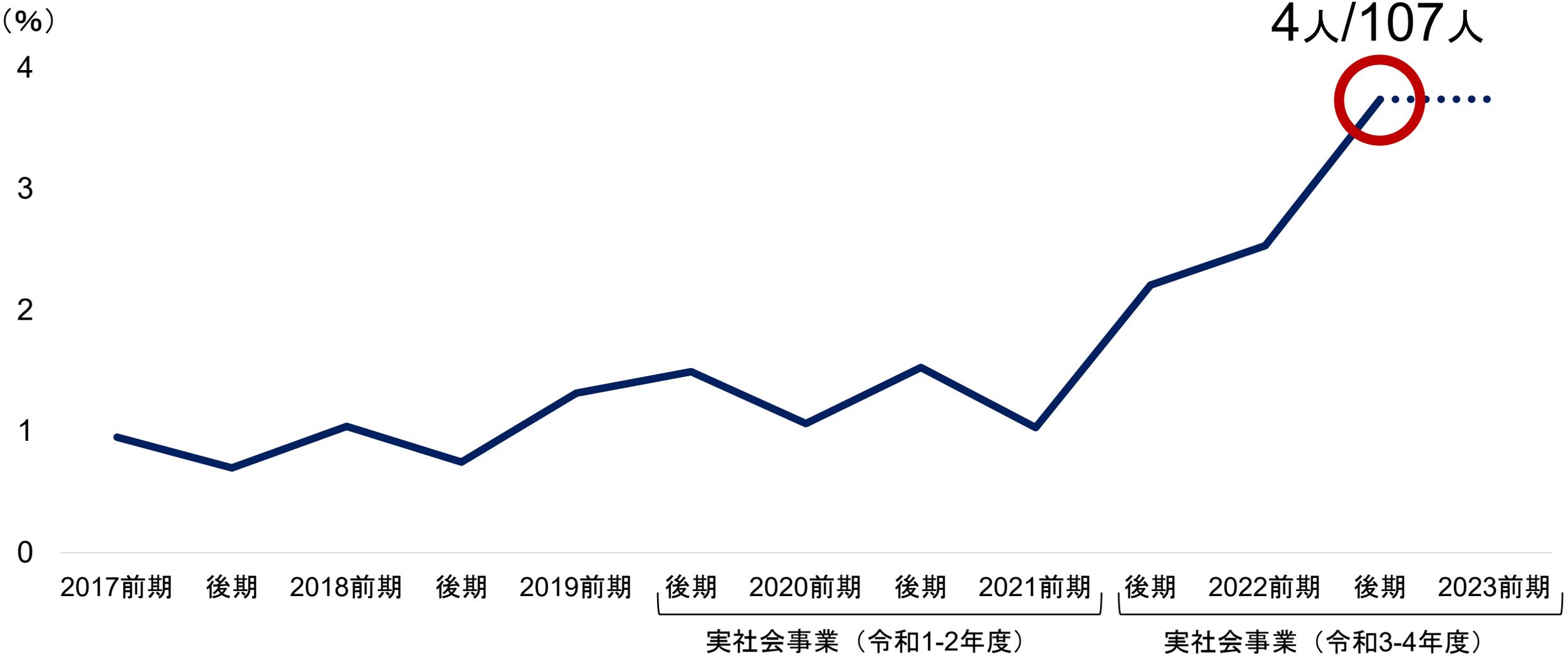
評価基準 (N=38)	割合
関心を持ち自分事として考え、より深めたく思った	52.6%
関心を持ち、自分事として考えられた	44.8%
関心は持ったが、自分には関係ないと思った	2.6%
関心を持った事柄は特にない	0%

97.4%

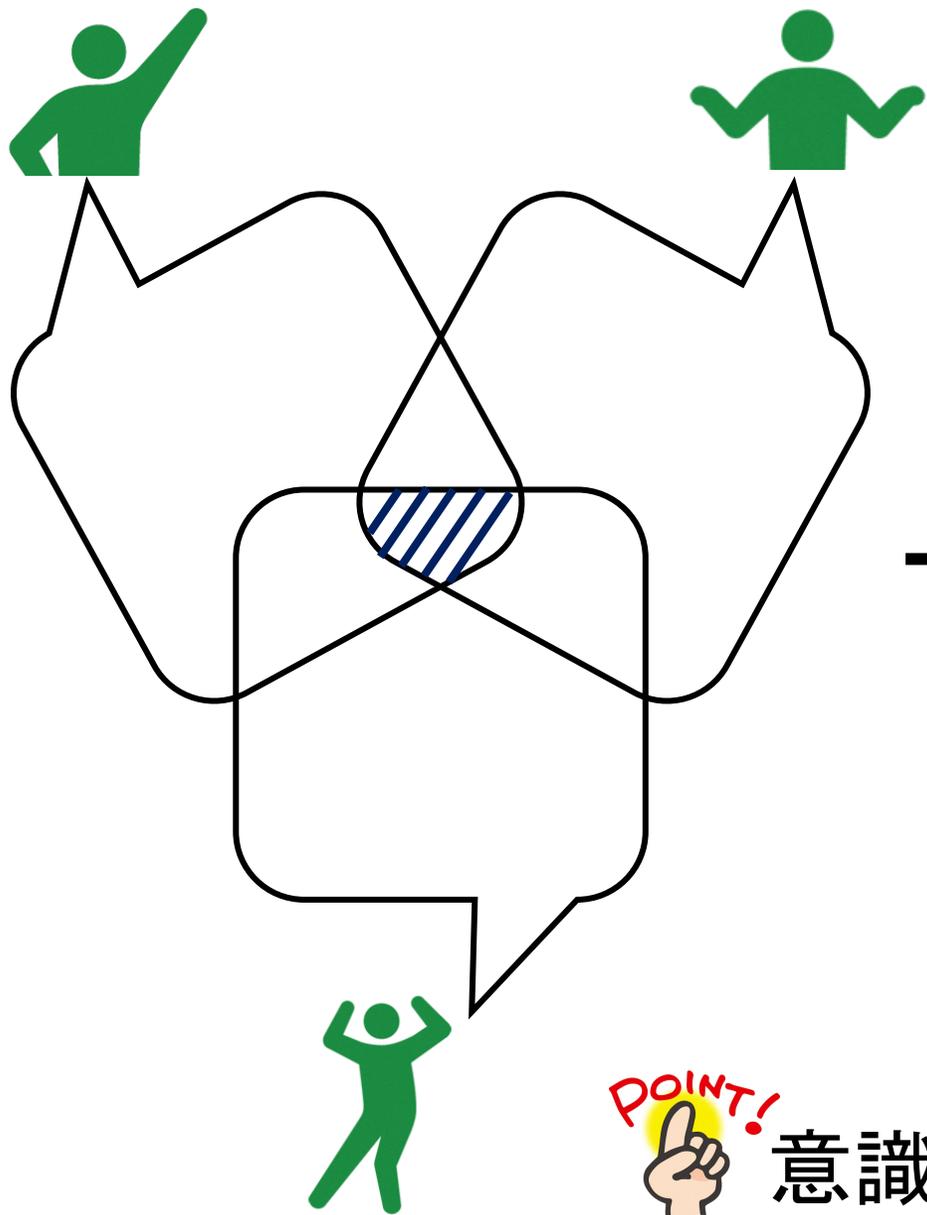


解決策を出すのは難しかったが楽しかった。
今回は自分の地元ではない土地の政策を考えたので、
地元のこととも考えてみようと思った。

成果2：全校生徒に占める生徒会長立候補の割合 (「主権者として必要な資質・能力」才)



課題：共感には2種類ある



壁を取り払った共感
(立場を越え、腹を割って語る)

壁をつくった上での共感
(それぞれの立場で実現に向けて語る)



意識して使い分けないと議論が空中戦になる